

Google Workspace と Google One の違い

個人・家族向けと、仕事向け。3種類のアカウント、違いの一覧（資料室RAGを含む）、個人アカウントで仕事を続けると起きること、どちらを選ぶか

更新日：2026-10-03（2026年10月時点の情報） | HUMAC 伊藤晴通

Google One は「自宅の物置」、Google Workspace は「管理人付きの事務所」

同じ「Google」でも、**個人で使うもの**と**仕事で使うもの**は、作りが違う。Google One は、写真や書類をしまう**個人・家族向けの保管場所**。Google Workspace は、会社・団体・個人事業主の**仕事のための事務所**で、独自のメールアドレス、管理者による管理、組織のデータ保護が付く。

この資料では、3つの違いをはっきりさせる。そのうえで、「**自分の仕事に、Workspace は必要か**」を判断できるようにする。

1. 「Googleのアカウント」は、3種類ある

① 個人のGoogleアカウント

誰でも無料で作れる。Gmail（○○@gmail.com）、ドライブ、フォトなど。保存容量は、Gmail・ドライブ・フォトを合わせて**15GB**。

② Google One

個人のアカウントに、**保存容量やAI機能を足す、有料の個人向けプラン**。最大5人で、容量を共有できる（家族向け）。

③ Google Workspace

法人・団体・個人事業主向け。独自ドメインのメール、管理者機能、組織のデータ保護。ユーザーごとに月額。

2. 違いの一覧

観点	個人のアカウント／Google One	Google Workspace
想定する使い方	プライベート・家族	仕事（会社・団体・個人事業主）

観点	個人のアカウント／Google One	Google Workspace
メールアドレス	〇〇@gmail.com で固定	独自ドメイン （〇〇@自社名.co.jp など）
料金	無料／Basic 月290円（100GB）／Google AI Plus・Pro など（Google Oneのページの表示）	ユーザーごとに月額（Starter 800円～、税別。→ W2）
保存容量	無料15GB。有料プランで100GB～5TB（最大5人で共有）	プランにより、 1ユーザーあたり30GB～5TB
管理者による管理	なし（本人がすべて管理する）	管理コンソール で、ユーザーの追加・停止、権限、セキュリティ設定を一括管理
データの持ち主	個人	組織 （退職者のデータも、組織に残せる）
会社の資料を、AIの根拠にする（RAG）	個人のドライブの資料を、個人で使う形になる	共有ドライブの資料を、全員で共有して、権限のとおり に使える。ドライブを直すと、AIの資料も自動で更新（→ W2）
AI（Gemini）に入力した内容	設定により、会話が改善に使われ、人の確認に回ることがある（設定で管理）	学習には使われず、顧客の許可なく人が確認することもない （Google の公式説明。→ W2）
Meet（会議）の参加人数	—	プランにより100～1,000人（→ W2）

個人アカウントとWorkspaceの管理・データの所有に関する違いは、販売パートナー各社の解説にも共通する内容。契約前に、Google の公式の説明で確認すること（出典欄）。

3. 個人のアカウントで仕事を続けると、起きること

場面	起きること
従業員が辞めた	仕事のメール・資料が、 本人の個人アカウントに残る 。組織で回収できない
誰かがパスワードを忘れた・乗っ取られた	組織としては、止める・リセットする手段がない

場面	起きること
取引先に、メールを送る	「@gmail.com」では、会社の信頼感や、なりすまし対策の面で、不利になりやすい
AIを使う	入力した内容の扱いが、個人の設定に任される。 お客様の情報を入れてよいか、組織として保証できない （→ D1）
複数人で資料を共有する	個人のドライブ同士の共有になり、持ち主が抜けると、資料が消えたり、見えなくなったりする

4. あなたは、どちらを選ぶ？

1

Q1 仕事でお客様とメールをする？

はい → 独自ドメインのメールが要る →
Workspace

2

Q2 2人以上で、資料を共有する？

はい → 管理と共有の仕組みが要る →
Workspace

3

Q3 AIに、仕事の情報を入れる？

はい → 組織としてのデータ保護が要る →
Workspace

4

Q4 全部「いいえ」？

写真・個人の書類の保管
だけなら、Google One
で足りる

目安

- **Google One で足りる**：プライベートの写真・書類の保管、家族との共有。
- **Workspace が向く**：1人でも、お客様とやりとりする個人事業主は、独自ドメインと組織としてのデータ保護の利点がある。従業員がいる、または、資料を共有する組織は、ほぼ、Workspace。

5. Workspace に含まれる主なもの

サービス	ひとことで
Gmail	独自ドメインのメール
ドライブ	資料の保管と共有。組織の共有ドライブも使える
ドキュメント・スプレッドシート・スライド	文書・表・資料を、複数人で同時に編集
Meet	オンライン会議（人数の上限はプランにより異なる）
カレンダー・チャット	予定の共有、社内の連絡

サービス	ひとことで
Gemini・Gemini Notebook	AIの相談相手と、資料を根拠に答える司書。 共有ドライブの資料を土台に、会社の「資料室」(RAG)になる (→ W2の5章、B1b)
管理コンソール	ユーザーの追加・停止、セキュリティ設定(2段階認証など)、AIのオン・オフ

関連資料

- W2 Google Workspaceのプランと、AI・情報の守り方
- W3 導入の進め方と、お申し込み(ご紹介)
- A2 無料版・有料版・組織契約の違い／D1 信号機ルール

出典(2026年10月確認)

- Google One プランと料金(Google) (<https://one.google.com/about/plans?hl=ja>): 無料15GB、Basic、Google AI Plus・Pro、最大5人で共有
- Google Workspace 料金(Google) (<https://workspace.google.com/intl/ja/pricing.html>): プラン、ストレージ、Meetの参加人数
- Generative AI in Google Workspace Privacy Hub (Google) (<https://knowledge.workspace.google.com/admin/generative-ai/generative-ai-in-google-workspace-privacy-hub>): Geminiのデータの扱い
- Google Workspace と個人向け Google サービスとの違い(販売パートナー) (<https://www.g-workspace.jp/comparison-googleworkspace-gmailcom/>) (独自ドメイン・管理者機能・データの所有)
- 個人用のGoogleアカウントとGoogle Workspaceの違い(KDDIウェブコミュニケーションズ) (<https://academy.kddi-web.com/beginner/google-account-comparison>) (二次情報)